

第28回小出記念日本語教育研究会

日時：2019年6月29日(土) 11:30~16:55

会場：国際基督教大学

参加費：会員 無料 ・ 非会員 2,000円 (当日入会可)
事前申込は不要。会場内に「子ども用フリースペース」あり

◆ ◆ ◆ 講演 (12:45~14:30) 【会場】本館 1階 116号室 ◆ ◆ ◆

「第二言語学習の情意的要因 —多様な学習者と向き合うために—」

【講師】 八島智子氏 (関西大学外国語教育学研究科 教授)

【要旨】
認知的な要因が中心であった第二言語習得論の分野において、この20年の間に動機づけや言語不安など情意的側面を扱った研究が急増している。日本語教育の現場は、多様な文化的背景と目的を持った学習者に向き合う場であるため、関連する情意的要因は、例えば英語教育の場合と比べて、さらに複雑化すると考えられる。今回は、動機づけとアイデンティティ、コミュニケーションへの積極性 (Willingness to Communicate, WTC)、異文化への態度などを鍵概念として、特に時間軸を取り入れた最近の研究を展望し教育的示唆を論じたい。

◆ 口頭発表 (14:40~16:55) ◆

【第1会場】本館 1階 170号室	【第2会場】本館 1階 168号室
中国人日本語学習者の文法能力は作文の特性にどう影響するか 楊艶萍 (中南林業科技大学) 他2名	スピーキング評価の着眼点はレベルと言語行動によって異なるか —プレースメントのための日本語スピーキングテストSTARのコメント分析より— 根本愛子 (東京大学) 他2名
留学中に綴られたブログ記事内のカタカナ語の特徴と誤用の分析 —米国の大学に在籍する日本語学習者を対象に— 山下順子 (広島大学) 他1名	日本語インタビューテストにみられる「くり返し」の使用と レベル別特徴 西部由佳 (早稲田大学) 他5名
レポート作成における評価手法の検討 —ルーブリック評価を用いたレポート指導のあり方— 鄭在喜 (早稲田大学) 他3名	教師の意味パースペクティブ拡張を促す円環型教師研修の提案と 実践 —授業実践と対話の場が繋がる新たな現職日本語教師研修モデルとして— 近藤弘 (筑波大学大学院生)
意見文産出における事前プランニングの効果 —流暢さ・複雑さ・正確さの観点から— 西島絵里子 (東京外国語大学)	海外において日本語ボランティア活動に参加した人の活動前から 帰国した現在までの意識変容 —自己実現と社会貢献の観点から— 小西達也 (名古屋大学)

◆ ポスター発表 ◆

【会場】本館 1階 152号室 (前半 14:40~15:40 後半 15:50~16:50)

前半	後半
初中級言語学習者向けのクラス間言語文化交流 鈴木和子 (バーモント大学) 他1名	日本語・英語学習者が両言語で学ぶ異文化理解クラス —学習者の視点からその指針を探る— 伊吹香織 (We Japanese Language School)
小学生の日本語多読動機保持と動機強化の試み 小林久子 (ホライズン・ジャパン・インターナショナル・スクール)	初中級クラスにおけるCLILの産出活動に語彙連想マップを援用した 試み 呉佳穎 (首都大学東京)
日本語母語話者に見られるばかし表現『とか』についての考察 —CSJ(Corpus of Spontaneous Japanese)の「自由対談」をもとに— 呉秦芳 (真理大学)	日本語学習者の名詞修飾の使用の変化 —LARP at SCUの分析結果から— 徐乃馨 (首都大学東京大学院生)
ワークショップ型教師研修の実践とファシリテーターの学び —日本語教師が自らの学びを確保するための一方法として— 中村妙子 (フリーランス) 他2名	タンザニアにおける日本語学習者の動機づけ —量的データの結果から— 瀬戸彩子 (神田外語大学)
	交流型日本語短期プログラムにおける学習者の日本語発話力の変化 —学習者発話の形態素解析から— 井口祐子 (恵泉女学園大学) 他3名

詳しいプログラムはウェブサイトをご参照ください <http://koidekinen.org/>

小出記念日本語教育研究会事務局 〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2 国際基督教大学日本語教育課程 桜木研究室気付

